

令和4年度 水沢高校 第3回学校運営協議会 議事録

1 日時 令和5年2月20日(月) 14:30~15:30

2 会場 水沢高校 会議室

3 出席者(12名) ※欠席者3名(菊地榮壽委員、朽木静委員、佐々木敏紀委員)

菊池祐委員、鈴木美喜子委員、山下明委員、東隆司委員、大越克芳委員、五十嵐智行委員、校長・菅野誠二、副校長・田鎖伸也、事務長・冨手明美、教務主任・松澤祐一、進路指導主事・目黒賢哉、普通科探究課主任・千條惇教諭 ※課活動報告のため

4 資料

(1) 令和4年度岩手県立水沢高等学校第3回学校運営協議会協議資料

(2) 令和4年度部活動その他諸大会の主な記録(令和5年1月27日現在)

(3) 令和5年度入試(令和4年度3学年)総合型選抜・学校推薦型選抜合否状況(令和5年2月15日現在)

(4) 令和4年度岩手県立水沢高等学校「総合的な探究の時間」各班の探究活動【概要】

5 次第

(1) 開会 (2) 校長挨拶 (3) 協議 (4) その他 (5) 閉会

6 議事録

(2) 校長挨拶

[校長]

今日はお忙しい中御来校いただきありがとうございます。今年度は本校にとって様々なことが過渡期でありましたが、何とか1年終えようとしております。今日は今年度の総括をして、来年度に向けての学校経営についての御意見をいただきたいと思っております。

まず、昨年度までの学校評議員会に代わり、学校運営協議会を設置して水沢高校はコミュニティスクールとなりましたが、まだ県内の約半数の高校がこの組織を設置しておりませんので、水沢高校の学校運営協議会について他校へ情報提供する機会が多かったです。この協議会については信頼できる委員の皆様を置くことが大切だと他校には伝えております。委員の皆様からは建設的な意見を多くいただいておりますこと、また大越様のように実際に普通科探究でお手伝いもいただいておりますこと感謝申し上げます。スーパーサイエンスハイスクール事業が昨年度で終了し、今年度からそれに代わり普通科探究の充実とSSHの取組を理数科で継承してきました。普通科探究については後程担当の千條の方から説明があります。理数科については県から理数教育推進事業で予算が付いており、校外での研修など数多く行っております。活動についてはその都度理数科通信というかたちでホームページに上げております。文科省から今年度策定を求められたスクールポリシーというものがあり、これもホームページに上げており、色々書いてあるのですが、以下の文言を特に大切にしたいと

考えて教育活動にあたっておりました。こういう文言になります。「多様な価値観や生き方を認め、より良い社会の構築のために主体的な判断のもとに行動ができる様々な分野のリーダーとなる人材を育成する。水沢高校の教育活動を通して自己肯定感と多様性を尊重する心を醸成し、幸福感ある人生を送れる人間を育成する」という部分です。キーワードは「多様性」、「主体性」、「自己肯定感」、「幸福感」というところになると思います。

過渡期と申しあげましたけれども、新制服への移行も問題なく進んでいると思います。2年生の女子もかなりの生徒が新しい制服を着用しているようです。それから授業時間についても変更がございました。昨年度まで、高総体がある6月までは45分×7校時で、その後は年度末まで50分×7校時でしたが、今年度からは通年45分×7校時といたしました。良い点は放課後が15:50から始まるということです。昨年度までの50分授業ですと、放課後は16:30からということでしたので、40分以上放課後の時間を早めることができたということで、このことで部活動時間の確保、それから秋口になりますと推薦やAOの指導の充実が図れたということ、それから放課後課外を実施しても勤務時間内で終わり、生徒に時間を返すことができるなどなど挙げられます。そのかいもあってなのか、新人戦の結果も好調でした。団体戦ではウェイトリフティングの男子が優勝、バドミントンの男子が2位、山岳の男子が2位、女子剣道が3位、サッカー女子が3位、バスケット女子が4位、硬式野球は夏秋連続ベスト8、文化部では、演劇が県大会2位で通過して東北大会で最優秀の1位、文芸・短詩は俳句が様々なものに入賞しているということです。また、岩手県教育委員会でその年の優れた実績をあげた生徒に贈るはばたき賞というのがあるのですが、これに(本校からは)2名賞をいただいております。ウェイトリフティングの小野寺凜さん3年生、俳句の阿部なつみさん3年生。ひとつの学校で1年間に複数名受賞するのはひじょうにまれなことであると思います。運動部、文化部とも活躍した1年であったと思います。

それから設備の方ですが、保護者・生徒からいろいろアンケートで指摘されるのですが、トイレの古さです。これも改修を来年度から徐々にできるように県の方に予算請求をしているところであります。

今日は、学校評価報告書というものを県に提出しなければいけないのですが、それについての学校関係者の評価や意見を書く欄がございますので、様々な皆様の御意見を伺えれば幸いに存じます。今日はよろしく願いいたします。

(3) 協議

資料説明

[副校長]

本日の出欠についてですが、菊地榮壽委員様と朽木静香委員様は御都合がつかず本日欠席でございます。会の進め方につきましては、はじめに部活動関係の記録の報告、進路指導課から、そしてその後、委員ではございませんが普通科探究課主任の千條惇教諭が同席しておりますので、新しい取組である探究活動について説明申し上げます。そしてさらにその後に学校評価についての説明をさせていただきます。

部活動につきましては、今まであまり目立っていなかったクラブの、“久しぶり”や“はじめて”といった活

躍が見られ、盛り上がっております。運動部で従来から強さを発揮しているクラブは多かったわけですが、この数年は文化部や理数科の活躍や成績が目立ち始め、上位入賞もしております。

[進路指導課 進路指導主事・目黒賢哉]

お手元の令和5年度入試総合型・学校推薦型選抜の結果についての資料を御覧ください。

まず、総合型選抜と申しますものは3年前まではAO入試と言われていたものでございます。AO入試との違いといたしましては、学力面を見られる比重が増したところであるかと思えます。学校推薦型は従来の推薦入試とほぼ同様のものですが、教科の試験や口頭試問等学力を試されることが多いかなという側面があります。

(資料表中表記や見方の説明)

今後こういうかたちが進んでいくと思います。今年度の(本校の)総合型・学校推薦型選抜への出願は100名で、うち47名の合格でした。通常、このタイプの入試の合格率は3割台と言われている中で、本校はここ数年5割近くの合格率をずっと出しております。内訳ですが、国公立(の合格者)は47名でございますが、東北大のAOⅡで理学部2名、岩手大学(の合格者)は県内で一番多いという結果となっております。本校は特定の大学に誘導する指導などは行っておらず、生徒の希望大学あるいは十分に検討を加えたうえで同系統の大学を紹介して再検討してもらったうえで出願しております。(岩手)県立大学にも5名合格ということですが、本校は宮城大学に例年3~4名合格者を出しております、総合型選抜の全合格者70名くらいなのですが、その中で4名を岩手県の本校から出しているということは(本校は)頑張っているんだな、と思います。

私立大学はほぼ出願した生徒全員合格しておりますが、今年度の特徴といたしまして、医学部医学科には弘前大学および秋田大学に合格しております。弘前大学は青森県の合格枠ですので、大学卒業後、青森県に数年勤めることになるのですが、それ以降は本県に戻って来ることができます。国公立大学医学部医学科に2名合格、それから岩手医大の地域枠という岩手県の医療局が奨学金を出している入試なのですが、こちらにも1名合格というわけで、医学部医学科合格者が3名出たということは近年なかったことであり、昨年度は2名でしたので今年度さらに1名増えたということでございます。

今年は就職希望者がおりまして、奥州市役所に3名合格ということでした。また、花巻市の消防に1名合格ということなのですが、本人は地元を希望したのですが求人がなかったことから花巻の消防での合格となっております。さらに民間就職希望者につきましてはここ10年以上いなかったのですが、今年出ましたのでハローワークや県の振興局の御協力をいただいて、金ケ崎に工場をもつ会社さんとかを中心に面接指導等いろいろしていただきまして、アイシン東北さんに合格することができています。というわけで、今年度は就職が5名ということで、皆目的をもってこのように進路決定し、地元にいるわけですので頑張ってもらいたいと思います。

また、私立大学はもうだいたい一段落着いたのですが、一般入試は今週末に前期日程試験がございますので、それに向けた努力が報われることに期待いたします。

[普通科探究課主任・千條 淳]

(2年生の) 生徒達が年度初めに自分たちがやりたいこと、好きなことを掘り下げて、それをできるだけ社会的に意義のあるものに近づけられるように、ということで、本日いらしていただいている大越さんをはじめ、社団法人「いわて圏」にお手伝いいただきながら1年間過ごしてきました。1～4名で構成される68班が普通科探究に取り組んでおります。それぞれの班がどのような外部団体にどのような援助をいただきながら具体的にどのような活動をしたのか、という様子を一覧にいたしました。

106班がございいますが、「福祉ネイルを広げて、繋げて」を探究テーマに、株式会社マッシュアップ、こちらは北上にございます企業ですけれども、あとは奥州市社会福祉協議会に助言や援助・支援をもらいながら入念な準備を行い、2月11日(日)に高齢者の方を対象に、うたたねカフェさくらの湯で、「福祉ネイル、ハンドマッサージ、爪磨き」というイベントを実施しました、というかたちになっています。こういった班が68あるというイメージをもっていただければよいかと思えます。ちょうどこの(106)班が昨日、奥州市民憲章共同フォーラムの方で発表してきて、地域の方々からも反響がございました。その他、水沢商業高校さんであったり、水沢一高さんであったり、岩谷堂高校さんであったりとか、総合的な探究の時間ないしは各専門高校の課題研究というかたちで取り組んでいるところはございますが、手前味噌ながら、市民の皆様の反応を伺うと、福祉ネイルの生徒達が取り組んだことというのは社会的意味もあるし、地域のために凄く頑張っているという要素もあるね、という温かい御支援をいただいたような印象をもっています。マイプロジェクトアワードというものが毎年開かれていまして、これは全国大会もある催しなのですが、私自身前任校も含めて6年くらいお世話になっているのですが、東日本大震災をきっかけにしてNPO法人カタリバが始めた企画なのですが、大槌とか宮城県南三陸町とかの子供たちの放課後の支援から始まった企画なのですが、今は全国的に広がってきて高校生が探究活動を発表する場をコンペ形式で観るということになっているのですが、2月14日に本校で校内のクラス別発表会をしたのですが、岩手県全体の発表会のレベルと同レベルの探究活動が本校の中で繰り広げられているな、といった印象をもっています。大越さんをはじめとする地域の皆様にフィールド、御支援・御援助をいただきながら、進めてこられたことに本当に感謝申し上げるとともに、まだまだ立ち上げの段階でございますので、これからもっともっと地域に生徒が入っていく、水沢高校だけでなく他校もどんどん刺さっていくこととなりますので、皆様におかれましては、高校生は今こういうことをしているみたいだよ、といった話をまわりの方々にぜひしていただいて温かく迎え入れていただけるような土壌として奥州市を県内でも先駆的な場所にしていけたらいいなあと望んでおりますので、何卒よろしく願いいたします。

[普通科探究課 補足説明・副校長]

若干補足いたしますと、活動そのものだけではなく、講師をお招きして上手なプレゼンテーションの仕方・作り方の勉強もしております、発表に上手に生かしております。

探究課に、何か御質問等ございませんでしょうか。

[鈴木美喜子委員]

408 班の女子生徒さんが私が所属している芸術協会に来まして、めんこい美術館で、具体的に自分達の作品をひじょうに若々しい、高校生らしい自由な発想で展示をしました。それを拝見して凄くいいなあと思いましたし、前段で説明のあった部活動の記録、さらに推薦入試等の実績を聞いて、何か凄くいいなと、これは水高の先生方と生徒が頑張っている成果だなと。こうやって高校生のうちから地域のこごとかまちづくりを考えながらそれを具現化するという、プレゼンテーションも含めて感謝したいと思います。

[東隆司委員]

(総合的な探究の時間には) 年間で何時間くらい生徒さんは取り組まれるのでしょうか。

[普通科探究課 主任・千條淳]

実際には色々な行事を重ねてしまったりして、28 時間くらいです。

[東隆司委員]

足りない時間は放課後とかを使って補完するのですか。

[普通科探究課 主任・千條淳]

授業ではガイダンスをして、生徒たちの自主性に任せて週末や放課後の活用になるのですが、今年度は立ち上げ年度でもあり、進め方のマニュアルが不十分なところもあったため、校長先生や教職員の理解もいただき、公欠で処理していただきました。市役所をはじめ外部の方々と取り組む場合には先方に合わせなくてはいけないところもございますので、その根拠をもって校内で決裁をもらい公認欠席を取らせてもらったものです。

[東隆司委員]

すべてを理解したわけではないけれども、パラパラっと見ただけでも凄く勉強して研究して外部の方々と接触しながら高い評価をいただいたということがわかります。これは、学校の授業のみならず、社会に出たときにはひじょうに役に立つだろうなと思いますし、倉成市長は議会のような場でも常々高校生の話題を出します。これからの若者に未来を託す、みんなからの意見を政策に生かしたいという強い意志も常々仰っております。水沢高校のみならず管内の高校生の皆さんが色々なテーマに気付き、そして、関連する方々からの御支援をいただきながら一定の成果を出すということは大変素晴らしいものであると思いますので、ぜひぜひ今後もさらなる充実を御期待申し上げたいと思います。

3名が就職したということですが、何か変わった要因はあるのでしょうか。

[進路指導課 進路指導主事・目黒賢哉委員]

特にございませぬ。まず、生徒の希望が第一でございますので、生徒と御家庭の御意向で公務員を目指したい、就職したい、もしくは進学したい、ということであればそれに沿うかたちでお手伝いさせて

いただいております。例年ですと、進学が多いのでそちらがメインに見えるのですが、このように公務員を目指したいとか民間に就職したいという場合には、それに合わせて面接や色々な指導等の努力は惜しまないということをしています。今年はたまたま希望する生徒が多かったということでその希望が実って良かったと思っています。

[東隆司委員]

(不適切な質問ではございますが) 大学の滑り止めということで公務員を受けた生徒さんではなかったということでしょうか。

[進路指導課 進路指導主事・目黒賢哉委員]

(その御質問の本質的な意味は十分) 理解しております。以前、30年、40年前であればそのような時代がございましたが、最近はそのような受け方をする生徒はまずおりません。進学なら進学、就職なら就職という受け方です。公務員を目指していて、今年は幸い皆合格したので良かったのですが、もし合格に至らなかった場合には生徒によっては専門学校に通って再び目指す生徒がおります。また時々あるのは、専門学校ではなくて宮古短大や盛岡短大などの公立の短大に進学してから公務員を受けるというもの。何れですね、公務員を目指す生徒は公務員を第一希望にしてそれに向かって勉強しているということで、併願はしていないということでございます。

[山下明委員]

新聞で見たのですけれど、探究活動について106班の巫女さんグループの子たちが新聞に載って良かったなと(思っているのですが)。これは全部が全部素晴らしいなと思っていて、何かこう、私たちもおじいちゃんおばあちゃんたちも、水高でこういう探究の時間をもってやっているよとなると、心が温まる、希望もてる、次の時代を託せるなあという思いをもって、やっている子たちだけではなくて、まわりの人たちも凄く活気付くような気がするので、できれば水高として探究してきましたということをやうまく市民の目に触れることはできないものかと、新聞に載れば凄いなあと思ったのですが、まさか68班分新聞に載せることはできないと思うので、何かの機会にあればいいのかなと思いました。駒形こどもの杜の子どもたちのお父さんお母さんたちも忙しくてなかなか朝髪のセットをするのが難しいのですが、アレンジメントしていただいて17人の女の子たちも目がキラキラさせていました。本当にありがとうございました。

[菊池祐委員]

この会の第1回に私が最初に参加したときに、この総合的な探究の時間が進路や受験とリンクする部分があったら理想的ですねという話があったと思うのですが、このテーマ一覧を見ると素晴らしいと思うのですが、実際のところ進路等で役立ったとかリンクしたところが見て取れた部分が学校側としての実感としてはどうだったのでしょうか。

[普通科探究課 主任・千條淳]

今は2年生が取り組んでいて、とりあえず1年間活動を頑張ってみよう。3年生になっても今のカリキュラムだともう1単位あるんですよ。週1時間あるので、私の計画としては、進路指導主事の目黒と相談しながら取り組んできたことを直接生かすというよりは、取り組んだ中で得られた資質や学びを自分の進路希望に生かすかたちにしたい、もう少し具体的にお話ししますと、先程山下さんにお話しただいた駒形こどもの杜の園児たちに対してヘアアレンジメントをした生徒たち、それがそのままヘアメイクという進路希望になるというよりは、こどもたちの注意を惹きつけるためにどういう準備を心掛けたか、子どもたちの興味・関心を惹きつけるためにどういうことを意識したかということから心理学に興味が生まれたというようなかたちで、少し私たち教員の方で掘り下げて取り組んだことと進路希望を有機的に結び付けられるような活動を次年度はしたいと思っていますところ。ですので、直接的には難しいのですが上手く繋げていきたいと探っている最中でした。

[進路指導課 進路指導主事・目黒賢哉委員]

特に、総合型選抜では高校時代に何に取り組んできたか、それを大学でどう生かすかを問われることが多いのですが、今千條からありましたように、取り組んできた内容そのものを聞かれるというよりも、そこから何を得たかを既に問われております。実際に今年度の3年生も面接指導の中で、「高校時代に取り組んだことは？」と尋ねると部活動のことを答えるのは勿論なのですが、「他には？」と尋ねたときにかなりの生徒がSSH事業で昨年度まで行っていた課題研究について話題に出しておりました。例えば、看護の生徒が医療とは無関係の、クローバーがどう増えるかというようなテーマに取り組んだとしても、それは看護とは関係ないのではないかと、などと言われることは決してありません。何故そのことに興味をもったか、それをどのように研究したか、その中でどういう問題や気づきがあったか、友人たちとどのように協働して取り組んだか、課題研究に取り組んだことによって自分に足りないものが何であったか、そういう振り返りをもったうえで、そこから得た気づきとこれからの指針を大学等で生かすというところが伝わりやすいのです。今の時点では、彼ら彼女らが興味をもったことに色々な方々の協力を得て取り組んだ経験そのもの、そこから得られたもの、興味関心もさることながらそこでの行動の仕方自体が入試等では評価されて合格していますし、今後の大学での学びに生かせるものであると思っております。

(普通科探究課 主任・千條淳 退席)

[教務課 主任・松澤祐一委員]

では、2ページ、生徒の学校評価アンケートの結果を御覧ください。1～14までの項目が、学校の取組に対する生徒の評価ですが、8の「学校は、中学生や地域に情報提供を積極的に行っている」については例年と比べて高くありません。9～14の教員の取組については過去最高の評価となっております。保護者からは、この9～14については「わからない」という評価があるところに課題があると考えます。生徒の15～25は、生徒自

身の自己評価や取組についてですが、特筆すべきは22で、スマートフォン1日平均3時間以上の使用については全学年ともにここ数年増えております。特に1年生の使用についてはかなり拡大しており、裏面のその詳細データがございます。1月20日にスマホ安全教室を実施いたしまして、生徒に対して適切な使用について呼びかけました結果、生徒からの感想には、スマートフォンが心身に与える影響であるとか、関わり方について見直したいというものが多数ございましたが、この学校評価アンケートはそれ以前に行ってものでございます。保護者に対するアンケート結果、4ページを御覧ください。先程もお話しいたしましたが、保護者向けのアンケートについては1～12までが学校の取組について、特に、8～12が教員の取組についてですが、生徒からは高評価であったのですが、保護者からは「わからない」という回答がかなり多い状況になっておりますので、「学校へ行く週間」では地域の方々からもいらしていただいたのですが、まだまだ保護者に対しての情報発信が足りなかったのだなと思っております。18については保護者は「例年と変わらない」ということで、学校としてはスマホの使用について危機感を抱いているのですが、御家庭ではそれほどでもないという現状がありここも情報発信により意識の共有をしていかなければならないということがアンケートから見て取れます。

[副校長]

5ページは教職員のアンケートです。特徴的な部分だけ申し上げます。(評価が)上昇傾向にあるのは図書課です。色々な取組をしております、生徒の希望者を募って、外部図書館やポンペイツアであるとかを見せに連れて行ったことは保護者からも好評でした。学年の取組も上がってきております。学年のチームワークを自分たちで高く評価しています。事務・環境分野も上がっているのですが、これは設備や環境の修理・整備等がスムーズになされたことが高評価を受けたものと考えられます。理数、探究の部分に斜線が多いのはSSH事業の終了により昨年度までとの比較ができず、単年度評価しかできなかったためです。8ページの岩手県民計画第1期アクションプランに係る調査に以上のことを総合的に判断いたしまして、評価Aという評価で提出したいと考えておりますと同時に、6ページからの5点ほど重点目標を掲げておりまして、根拠は学校経営計画でございます。数値目標を掲げておりましたが、以上の学校評価アンケートの対応する項目の評価の数値と照らし合わせるとすべて達成できたと丸をつけることができました。本日のこの会では委員の皆様方に学校関係者としての評価と今後の改善方策を伺いたいという趣旨でございます。

[山下明委員]

コロナが始まってテレビとかで子どもたちがコロナのせいでいろんなことができなくなって私たちの高校時代はどうなっちゃうの?という報道があったので、私たち親は心配していたのですが、子どもたちは意外に楽しいとか、充実しているといった、親のそういう心配な気持ちとは別に子供たちは子供たちなりにコロナに対応して生きているという感じがするアンケート結果で子どもたちってすごいと思わせるアンケート結果でした。

[東隆司委員]

いじめについての質問項目もそうですが、生徒へのアンケート結果と保護者へのアンケート結果の数値が異なっている項目がございますが、何か起きないと保護者は気付かないものでありますし、数値の差はそれほど問題ないのではないかと。今の子供たちは家では保護者の方々とそこそこコンタクトを取ったり話をしているのかなとこのアンケートから読み取れるのではないかと、けっしてこの数値が高くて保護者の理解がないと捉えなくてよいのではないかと、学校の取組はきちんと伝わっているというふうに評価すべきではないかと私は思いました。

[校長]

このアンケートとは別に年に2回、初夏と冬前に「学校をよりよくするアンケート」というものを実施しております。全生徒と全保護者と全職員に対して、例えばいじめを見たり聞いたりしたか、みたいなアンケートを取っていきまして、そこに記述があるものにはすべて対応しております。いじめについての記述があったのは今年度2件でしたが、それもいじめ認定して指導しているというような状況です。あと、この学校運営協議会委員というのは学校の人事についても話してよいものですので話しますが、教員の不適切な言動についての記述もあります。保護者、生徒、あるいは職員からのものもすべてきちんと指導しております。この規模の学校の割にはほとんどそういう記述が出てこなくて皆さん充実した学校生活を送っているのではないかなという実感がありますし、廊下等ですれ違う生徒、教室で授業をしている先生方、マスクはしておりますが（顔のすべては見えませんが）ひじょうにいい目をしているなど感じております。

[大越克芳委員]

来年度から一緒に働けるということもございまして、私、別の仕事も持っております、移住・定住の担当をしておりますが、水沢高校さんというどうしても大学進学されて県外に出られてしまってなかなか戻って来ない社会減のひとつの要因ともなっているのですが、就職も含めて、岩手大学さんにもかなり進学されている生徒さんもいらっしゃるということで、今取り組ませていただいている探究学習で地元の魅力を知ることによって、5年後、6年後かもしれませんが、一度外に出て新鮮な空気を吸ってまたこちらに戻ってきてもらうかたちに繋がればいいかなと思っておりますので、ぜひ引き続きよろしくお願ひしたいなと思う部分と、来年度一緒に働くことになっている皆さんにも先輩というかたちで高校に何か還元してもらえれば嬉しいなと思っております。

[五十嵐智行委員]

学校や地域への情報発信、ボランティア活動は昨年を下回っているのが課題となってくるのかなと思います。

[校長]

第1回のこの会議が終わった後に菊池祐委員から情報発信が凄く大事なのだということを言われまして、そのとおりだなということでホームページの更新については昨年度に比べるとかなり向上したのではないかと自

負はしておりますけれど、開いたらすぐに水沢高校ではこういうことがあったよ、という内容が出てきて、私としては中学生に水沢高校での生活を疑似体験してほしいなど、保護者に対しても同じなのですが、ホームページについてはかなり改良されているのですが、それを閲覧してくれないということですよ。来年度については学校ホ訪問した際にぜひ水沢高校の学校生活を疑似体験しましょう、毎日ホームページを見てください、というようなことは言わなければいけないのかな、と思っていました。この部分については学校としてはかなり努力しているのですが結果が出ていないということでまた来年度に期待したいと思いますし、あとボランティアはコロナがあって対面や人と接する活動には制限がかかっていましてなかなか難しいですね。大鐘の花壇づくりくらいですかね、水沢高校JRCと名前を入れさせていただいているのですが、普通科探究の活動の中でもボランティアはカバーできているのかなと思います。

[東隆司委員]

今年度の水高受験者数は？

[校長]

238名ですね。推薦入試で既に25名決まっているので、215名定員に対して238名の志願です。

[山下明委員]

県内軒並倍率1倍を切っている中、水高さんは地元中心に行きたいと思っている生徒さんがいるということはあるかと思います。新たな歴史を作っていく、どんどんいい学校になってほしい。

[校長]

今年の倍率は盛岡地区も結構抑えられていて例年に比べて少ないなという印象です。花北、黒北、関一はすべて定員を割っているのですが、水高にはもっと来るかと思っていたのですが私立に行っているのかと思います、危機感を持っております。早く進路を決めたい子が多くなっているため、私立の青田買いに皆流れてしまっている。

[山下明委員]

因みに推薦で合格した25名はスポーツなのか。文化部なのか？

[校長]

部活動でとるようなかたちで、様々な部です。

(4) その他

なし

[校長]

今年度の委員の皆様には水沢高校を温かく見守っていただきまして大変感謝しております。あて職では来年度若干メンバー変更がございまして、今年度委員長を務めていただきました菊地祐様は任期を終えまして、来年度は代わりに五十嵐様が委員長ということになります。一つ空きましたPTA枠には、現在1学年PTA会長の浅間光将様がそこに入ります。また、奥州地区中学校長枠には菊地榮壽様ですが御退職なさいますので、

公認の方は菊地榮壽様に推薦いただくことになっております。それ以外の委員の皆様には後日あらためて御相談申し上げますが、できればまた来年度もお願いしたいなあと思っておりますのでどうぞよろしく願いいたします。今日は本当にありがとうございました。

[副校長]

以上で、岩手県立水沢高等学校第3回学校運営協議会を閉じます。本当にどうもありがとうございました。